

私の目指す授業

## 友達の動きのこつを手掛かりに、自分に合った動きのこつを見だし、動きを身に付ける授業

運動する子どもとそうでない子どもの運動時間や運動意欲の二極化，体力の低下傾向が依然深刻になっています。生涯にわたって体力の維持・向上を図るために，すべての**運動領域への乗地となる体づくり運動の「多様な動きをつくる運動遊び」は、非常に重要な領域**です。そのため，教師は運動遊びを通して体の基本的な動きを総合的に身に付けることをねらいとして指導してきました。しかし，実際には，運動遊びをしているだけでは，基本的な動きができない子どもも見られました。



動きを身に付けるためには，子どもが自分の動きに意識を向け，自分に合った動きのこつを見いだす必要があります。友達の動きのこつを手掛かりに，既有的こつと新たに得たこつをつなぎながら，自分に合った動きのこつを見いだします。そして，自分に合ったこつを基にして運動するからこそ，動きを身に付けられることができるのです。

このように，学びをつなぐ力を発揮し，繰り返し運動することで，**自分に合った動きのこつを見だし，動きを身に付ける子ども**になるのです。

### ポイント①. 「動きのカルテ」で自分の動きを意識させます！



動きを身に付けさせるための働き掛けとして，動きを身に付けるために必要な体の動かし方を示していました。しかし，自分の動きを意識していない子どもに，動きを身に付けるために必要な体の動かし方を示しても，**子どもが自分の動きと動きを身に付けるために必要な体の動かし方をつなげて考えることはできません。**

自分の動きに着目させるために，映像を使ったり，言葉を掛けたりして自分の動きをフィードバックすることは，よく行われています。ただ，低学年の子どもにとっては，それが難しすぎて，有効な働き掛けになるのだろうかという疑問をもっていました。

そこで，私は，「**動きのカルテ**」を使います。「動きのカルテ」とは，動きのこつの基となる体や用具の動かし方の視点を示した学習カードです。ビデオフィードバック等の難しいことではなく，低学年の子どもでも簡単にできそうな，この「**動きのカルテ**」を

動きのカルテ (例)			
【ひじ】	のばす	まげる	そのた( )
【ひじ】	まっすぐ	ななめに	そのた( )
	立てる	かたむける	
【こし】	のばす	まげる	そのた( )
【あし】	とじる	ひろげる	そのた( )
そのほかのこつ			
<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>			

**使って自分の動きに意識を向けさせます。**自分の動きに意識を向けた子どもだからこそ，動きのこつをつかみやすくなるのです。

**ポイント②. 特定の動きのこつを子どもに与えるのではなく、様々なこつの中から、自分に合ったこつを見いださせます！**



動きを身に付けられない子どもにとっての要因は多様にあるにもかかわらず**特定の体の動かし方を示しても、それが必ずしも動きを身に付けられない子どもに役立つとは限りません。**

そこで、私は、「動きのカルテ」によって得た視点を基にさせて、**自分の見付けたこつと友達の見付けたこつを比較させたり、分類させたり**します。そうすることで、自分のこつと友達のこつの相違点に、自分の課題があるのではないかと気付かせます。

そして、課題を解決できそうな動きのこつを試すことで、自分に合ったこつを見いださせるのです。

**ポイント③. 低学年でもできる課題解決的な学習により、子どもに達成感や成就感を味わわせます！**



これまでは、子どもが夢中になって運動遊びに取り組む結果として多様な動きの獲得につながるように、様々な運動場面を設定してきました。しかし、それだけでは、楽しんで運動する姿は見られるものの、「**やったぞ**」「**できたよ**」という課題を解決した喜びや成就感を味わいにくかったと考える。それは、「動きを身に付ける」ことが目標ではなく、運動遊びを行った結果として動きを身に付けることを狙っている授業であるが故に、**子どもの「動きを身に付けたい」「できるようになりたい」という目的意識が弱かった**からだと考えます。

そこで、私は、上記のような「動きのカルテ」を使い、それを比較したり分類したりさせて、様々なこつを取り上げます。その中から、自分をもっとうまくなれそうなこつを選ばせて、試させることで、自分に合ったこつを見いださせます。その**見いだしたこつを基にして運動するからこそ、子どもは動きを身に付けます。これが、「やったぞ」「できたよ」という課題を解決した喜びや成就感につながります。**

学びをつなぐための構造図

